

単元構想シート

〇〇小学校

第4学年 よごふるさと科（総合的な学習の時間）

単元名「しずくのゆくえ」 全22時間

<p>単元目標 (育成したい 資質・能力)</p>	<p>○余呉の自然環境の特徴やよさ、それを支える人々の努力や工夫、自然と共存していくことの素晴らしさについて知る。 [知識及び技能]</p> <p>○自然環境の特徴を生かしながら、自然を生かした楽しみを見いだしたり、環境を守っていくために自分たちは何ができるかを考えたりする。 [思考力、判断力、表現力等]</p> <p>○余呉の自然環境とのつながりを意識しながら行動したり、生活したりする。 [学びに向かう力、人間性等]</p>	<p>二つの側面</p> <p>A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力 B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力</p>	<p>三つのプロセス</p> <p>①発見・蓄積 必要な情報を確かに取り出す ②分析・整理 情報を比較し、関連付けて整理する ③再構築 自分なりに解決し、知識を再構築する</p>
-----------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

単元の流れ ○主な学習活動 □指導上の留意点	○「読み解く力」を育成するための手立て	「読み解く力」の育成に重点を置いた目指す児童生徒の姿	
		A:文章・グラフ・図から	B:やりとりから
<p>①②学校の裏山の林道を歩き、発見したこと、気づいたことをみんなで共有し、課題を設定する。 ○学校の裏山の林道を歩き、発見したこと、気づいたことをみんなで共有する。 □実際に山や川を歩き、自然の恵みをたくさん体感し、体験から得た感動や驚き・疑問を大切に にする。</p> <p>③④くらしを支えている水がどこから流れてきているのかについて考えることを通して、大切な資源であることを学ぶ。 ○くらしを支えている水がどこから流れてきているのかを知り、大切な資源であることを学ぶ。 □社会科「くらしをささえる水」と理科「雨水のゆくえと地面のようす」と関連付ける。</p> <p>⑤～⑧余呉の川でフィールドワークを行い、上流と中流の比較をしながら水環境について調べる。 ○余呉の川でフィールドワークを行い、上流と中流の比較をしながら水環境について調べる。 □水生生物調査等、実際に子どもたちが体験しながら収集した情報をもとに、川の水質や川環境について考える。</p> <p>⑨～⑪他の地域（琵琶湖沿岸や淀川下流）と比較しながら、余呉の水環境の特徴やよさについて知り、自分たちには何ができるかな。 ○余呉の川と琵琶湖沿岸、淀川下流部の水環境を比較することで、それぞれの特徴を整理する。 □自分たちができることについて、交流やグルーピングをすることを通して、整理する。</p> <p>⑫～⑮山の仕事を知ろう。 ○山の仕事や、山の資源を生かした取り組みをされている方々の話を聞いたり、実際に間伐体験や木工クラフト等の体験をしたりする。 □体感を豊かにするために、五感を使った活動を大切に にする。</p> <p>⑯⑰「山のすてき」をまとめよう ○自分の見つけた「山のすてき」をまとめ、これまでの(2学期)の活動を振り返りながら、学習の足跡を残していく。</p> <p>⑱～⑳余呉のすてきを広げる「しずくのゆくえ」展を企画する(本時) ○「しずくのゆくえ」展を企画し意見交流を通して、自分の考えを深める。 □自分の考えを再構築するために、広く意見を聞く場を設定する。</p> <p>㉑～㉒余呉のすてきを広げるための「しずくのゆくえ」展を開催する ○「しずくのゆくえ」展の開催準備を進め、適宜意見交流を重ねてよりよいものを目指す。 □これまで蓄積した学びを可視化することで、自分の伝えたい観点を意識できるようにする。</p>	<p>○目的意識をもつための工夫 ・地域の特徴やよさを知る活動において、体験活動(五感体験)を大切にする。 ・1学期から学習の足跡が目に見えるように、掲示等を工夫する。</p> <p>○分析・整理するための工夫 ・他地域(琵琶湖沿岸・淀川下流)の川の様子と余呉の川の様子を交流することで、余呉の川の様子について自分の考えを広げたり深めたりする。 ・友達に加え、地域の人材をゲストティーチャーとして招いて交流することで、観点を明確にして考えを整理する。</p> <p>○「再構築」するための工夫 ・振り返りをipadに蓄積していくことで、自分の考えを積み上げてよりよいものとする。 ・自分の考えをプレゼン形式で地域へ伝える場を設定し、根拠や意図を整理して伝えるようにする。</p> <p>◇ICTの活用 ○体験、調査活動の蓄積 体験、調査活動における成果の写真や動画をipadに溜め込み、蓄積していくことで、自分の考えの根拠として活用する。</p> <p>○調査結果をプレゼン資料にまとめる ipadのロイロノートを活用して、水生生物調査で分かったことをまとめ、びわ北小学校の4年生とzoomで交流し、上流と琵琶湖沿岸の中流での水質を比較しながら、生き物の住みやすい環境について考える。</p>	<p>① 文章や資料等から、目的に応じて情報を取り出す ・実際に川や山を歩くなど体験活動を通して問題意識をもつ姿。 ・観察活動時に撮影した映像から情報を取り出す姿。</p> <p>② 様々な情報を比較し、目的に応じて分析したり、整理したりする ・観察、調査した情報を整理・分析し、考察する姿。</p> <p>④ 解釈した内容を経験や知識と結び付けながら考えを深めたり、創造したりする ・余呉のすてきを広げるためにどんなことをしていくといいか、交流を通して自分の考えを深めている姿。</p>	<p>①相手の言葉、しぐさ、表情をもとに相手の思いを感じ取る ・地域で自然に関わる仕事や取組をされているゲストティーチャーの話を聞いている姿。 ・相手の思いや考えを交流しながら感じ取る姿。</p> <p>③ 相手の思いや意図を自分の考えや経験と比較しながら整理する ・考察した内容を交流して、余呉のすてきを見いだしている姿。</p> <p>⑤やりとりを通して、相手の思いや意図を踏まえながら、自分の考えを確かなものにしたり、創造したりする ・交流を通して、余呉のすてきを広げる方法を見いだしている姿。</p>